

きゅうり

科名：うり科
 原産地：インド、ヒマラヤ山麓
 生育適温：18～28℃ 発芽適温：25～30℃
 漢字：胡瓜

◎ 栽培カレンダー

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通栽培						苗の植付け			収穫			
						x-----			□□□□			

◎ 栽培に必要なもの(10㎡あたり)

きゅうり苗…14本

肥料:堆肥 30kg

苦土石灰 1kg

元肥用化成肥料(10-8-9)2kg

追肥用化成肥料(10-2-9)2kg

支柱:180cm程度の支柱 20本、きゅうりネット等



畑づくり

- ・ 植付けの2週間前に、堆肥や苦土石灰を施用して、土づくりを行っておきます。
- ・ 植付け前に元肥を施し、幅150cmのうねをたてます。

苗の選び方

- ・ 茎が太く、節間のつまった苗を選びます。
- ・ 連作となるような畑では、接木苗を購入して栽培すると、病気の発生が少なくなります。
- ・ ポットで大きくなった老化苗を畑に植えると、樹が茂る前から、実がつき成長が悪くなるので、できるだけ若苗を植えるようにします。



広島市内産の「きゅうり」

昭和20年代には、安佐南区佐東地区において「川内きゅうり」という独自の品種が育成され、栽培面積も10haを越えるなど、さかんに栽培されていました。

最近ではきゅうり栽培から軟弱野菜栽培に変える農家が増え、きゅうりの生産は減少傾向にあります。朝どり出荷や昔ながら品種である「四葉系きゅうり」の栽培に取り組むなど、消費者ニーズに対応して栽培されています。

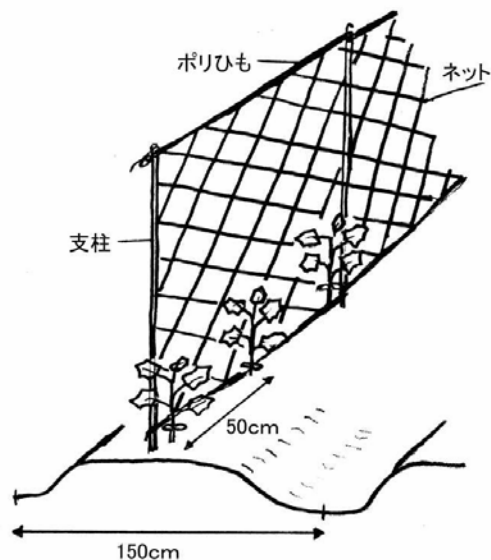
植付け

うね幅 1.5m 株間 50cm 1 植え

- ・ 植付けは晴天日の午前中に行います。
- ・ 植付け後、根と土が密着するようにたっぷりかん水します。

支柱立て

- ・ 植付け後、支柱を立て、市販のきゅうりネットを張るか、ポリひも等で誘引します。

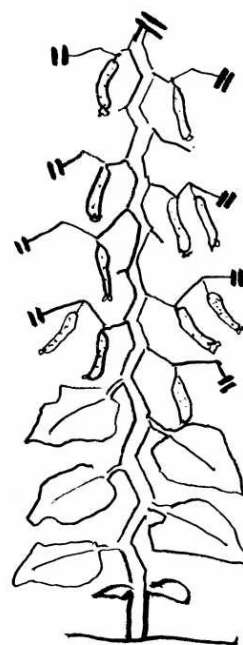


かん水と追肥

- ・ きゅうりは水分を多く吸収する作物なので、十分にかん水し、夏の高温乾燥期には、しきわらをします。
- ・ 追肥は植付け後、1ヶ月位から 10 日間隔に 200g ずつ施用します。
- ・ 乾燥したり、低温や高温で肥料や水が十分に吸えない場合、きゅうりの苦味が増します。

管理

- ・ 主枝の 5 節までにでてくるわき芽やめ花は早めに全部かき取ります。主枝の 6 節以上からでてくる子づるに 1~2 個、実をならせて、その上の葉を 1 枚残して芯を切り取ります。
- ・ 樹がこみあってきたら、適当に葉かきをします。
- ・ 病害虫の発生を防ぐために、子づるの整理を早めに行い、風通しをよくします。



収穫

- ・ 花が咲いてから、7~10 日後、長さ 15~20cm、重さ 100g 程度で収穫します。



きゅうりは 6 世紀に日本に渡来しており、その歴史は古いのですが、苦味が強いいためか、「下品のうり」などどされて、粗末にあつかわれることが多かったといわれています。明治時代に入ってから品種改良が進められ、苦味が出にくい品種が育成されています。

現在ではサラダなど洋風料理にも、また漬物にもよく使われ、果菜類の中では消費量がトップとなっています。

きゅうりは特有の香りとパリパリとした歯ざわりが魅力の野菜です。96%が水分で栄養価はあまり期待できませんが、ビタミンCやカロチンが含まれています。